



九頭竜川沿いの勝原園地キャンプ場で1泊した



今も水が湧き出る大清水。遊びにきていた地元の子どもたちと交流



ナイラとフィビーは機織りに挑戦。蚕と繭を見るのも気に入ったようだ

私たちは世界中をサイクリングし、これまでに4大陸50カ国、8万8000kmを走破してきた。そして今、再び日本で自転車の旅ができることをうれしく思う。

大切なのは、走行距離ではない。自転車によるスローな旅は、五感を使ってその土地を体感できる。子どもたちは、来る日も来る日も自転車を漕いでいるが、ご褒美が欲しいわけではない。「驚き(=wonder)」を手に入れたいのだ。滝で泳ぎ、地元の人と話し、動物を見つけ、思わぬ大木に出合い――。ジャパンエコトラックはまさに、その土地が持つ自然や文化を味わうために設定されたトラックといえるだろう。

福井県越前市から山を越え、大野の街へ下り始めると、正面に突然、越前大野城が現れた。フィビーは日本の城を見たのは初めてで大興奮だ。大野市街を抜け、九頭竜川にたどり着くと、川が蛇行する場所に勝原園地キャンプ場があった。エコトラックのベースにちようどいい。目の前にはターコイズブルーに輝く川。もちろん私たちは飛び込んだ。

翌日は勝山という小さな町へ。高さ57・8mの勝山城博物館を眺めながら田んぼを走ると、越前大仏で有名な清大寺があり、五重塔から寺院や城、田んぼや山々を見渡した。街中では大清水という湧き水も見つけた。その先に「はたや記念館ゆめおれ勝山」があった。娘たちは蚕と繭がお気に入り、手織りにも挑戦した。私たちの衣服が、もとは自然からできていることを実感した。

私たちはさらに九頭竜川に沿って永平寺まで30kmの道のりを下った。

## JAPAN ECO TRACK くずりゅう 九頭竜川・荒島岳エリア

九頭竜湖から荒島岳のふもとを経て日本海へ注ぐ九頭竜川を有するエリア。パッシュファミリーは、川の流れに沿って歴史や自然を体感できるサイクリングルートを辿りました。



九頭竜川  
荒島岳エリアの  
詳細はこちら

## Report 6/5～13 福井県



世界中をめぐる自転車の旅を続けているスイス人一家、パッシュファミリー。2022年にはジャパンエコトラック公式アンバサダーに就任。2023年5月からは、ジャパンエコトラック登録エリアを巡る旅をスタートしました。今回は福井県から富山県の旅の様子をシリーズ・パッシュさんにレポートしていただきます。

JAPAN  
ECO  
TRACK®



The Wonder of Nature  
"JAPAN2023"

# パッシュファミリーの 日本周遊自転車旅

ジャパンエコトラック公式アンバサダー

福井県 >>> 富山県  
Report

## 旅の予定

5月に鳥取県の大山を出発。中国地方から日本海沿いを北上し、北海道へ。その後太平洋側を南下し、大阪を目指す予定です。

- 5月～7月の移動ルート
- 8月の移動予定ルート
- 9月～11月の移動予定ルート



※行程は変更となる可能性があります。

JAPAN ECO TRACK® とは?

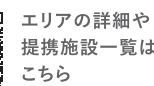
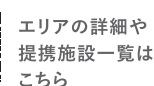
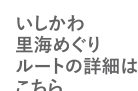
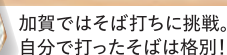
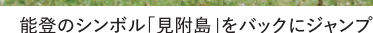
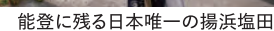
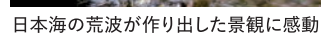
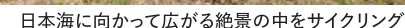
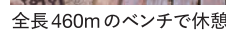
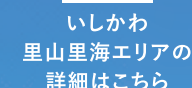
トレッキング、サイクリング、パドルスポーツ……人力による移動手段を通じて日本の魅力を発見する旅がジャパンエコトラックです。現在全国29の登録エリアに、345の見どころいっぱいのルートを整備。レンタル施設も充実しており、誰でも気軽にアウトドアスポーツを楽しめます。



JAPAN ECO TRACK  
公式ウェブサイト



加賀から能登までの豊かな自然、美しい里山里海の景観、昔から続く日本の農山漁村の原風景に出合えるエリア。パッシュファミリーは海岸線沿いのルートを中心に約350kmを走りました。



樹齢2,300年のご神木からパワーをもらう

下ると、フィビーが突然「止まろう！すごい木がある」と叫んだ。樹齢2300年という柗野大杉だ。娘たちは目を輝かせて菅原神社の境内に入っていく。幹の周囲11m、直径3mの巨木に大興奮だった。

山中温泉では一組の家族と出会い、それは打ち体験を紹介してもらった。粉をこね、生地をのぼして切るところまで全てをを行い、その薫り高いそばを味わった。おいしかった！

まだ雪をかぶった白山を見上げる白山市では、アイスクャンディーやぶぐの卵巣のぬか漬けなどのユニークな食を楽しんだが、実のところナイラとフィビーが一番楽しん

素晴らしい夕陽が海に沈んでいく。この日は厳門洞窟<sup>がらもん</sup>をはじめとする能登金剛や、伝統的な漁村の眺めなど、能登の自然を見ることができた。翌朝は1000年の歴史がある輪島の朝市で干物やイカを味わい、<sup>しつろねせんい</sup>白米千枚田を目指した。水を湛えて鏡のように輝く田の一枚一枚がそれぞれ優雅な形をして連なっていた。ナイラはその美しさとともに、棚田を維持するための人々の苦勞にも思いを馳せていた。

ナイラにとつての能登でのハイライトは「道の駅 ず塩田村」で揚げ浜式製塩を見たことだった。海水を砂にまき、その砂を木製の箱に入れ、海水を注いで塩分濃度を高くして釜で煮る。ナイラが走つてきて言つた。「この塩を水筒に少し入れておくと、サイクリングが長く続けられるよって、おじさんが教えてくれたの！」自然、文化、歴史、食が見事に融合していた。

フィビーにとつて石川県で最も特別な瞬間は、海を眺めていた時にイルカがジャンプしたことだった。驚きはどこにでも転がっているのだ。



石川県では  
お寿司も堪能。  
新鮮でとっても  
おいしい!



メリノウールのウェア



メリノウールは家族みんな大好き。汗冷えしにくく、においも防いでくれます。  
メリノウールプラスライトT Men's  
#1114604 ¥8,580  
スーパーメリノウール M.W.  
ラウンドネックシャツ Women's  
#1107655 ¥7,480  
メリノウール サポートテック  
トレッキング ショートソックス  
#1108899 ¥2,090



自転車用ヘルメット

毎日使うものだから、蒸れにくく、快適な装着感が嬉しい。  
サイクルヘルメット Kid's 50-54  
#1124780 ¥3,850

※グザヴィエ、セリヌが着用しているモデルは完売。

サイクリングの必需品  
「自転車用ヘルメット特集」

秋冬サイクリング  
ウェアガイドは  
こちら

レインウェア

ゴアテックス製のレインジャケットとパンツは、大人用も子ども用も素晴らしい作りです。梅雨にはとても役立ちました。

レインダンサー ジャケット Kid's 130-160  
#1128605 ¥17,820  
レインダンサー パンツ Kid's 130-160  
#1128606 ¥11,880



キッズのフリースウェア

自然の中で遊んで汚れてしまっても洗濯が簡単なシャミースは最高です。乾くのも早い!

シャミース ジャケット Kid's 130-160  
#1104090 ¥4,840

キャンプを快適に過ごすコツは?



一番大切にしているのはテントを張る場所選びです。旅を続けるために、夜は体をしっかり休めることが最も重要なので、騒音から離れ、街灯のような明るい光のない場所を選ぶようにしています。地面が平らであることはもちろん重要ですが、日本では雨が降っても浸水しない場所を常に探しています。

コーヒードリッパー & 野箸

再利用可能なコーヒーフILTERと折りたためる箸はグザヴィエのお気に入り。

O.D.コンパクトドリッパー2  
(2~4杯用) #1124510 ¥1,980  
スタックイン 野箸 #1124186 ¥3,630  
チタンカップ450 #1124515 ¥2,860



ランタン

テント内を照らすのにとても気に入っています。電子機器の充電にも使えるのが便利。

パワーバンク ランタン  
#1124779 ¥6,600



INFORMATION

旅の記録を綴った写真エッセイ集

行く先々での素晴らしい瞬間を切り取った  
圧巻の写真とエッセイで紡ぐ家族の10年の物語。

パッシュファミリー自転車冒険記  
#3611176 ¥5,800

2名さまにプレゼント! ※詳細はP49をご覧ください

最新の旅の様子はこちらをチェック



Report  
6/24~27

富山県



JAPAN ECO TRACK  
立山エリア

標高3,000m級の山々が連なる立山連峰を有するエリア。里には立山連峰からの清らかな雪解け水が育んだ美しい風景が広がります。パッシュファミリーは豊かな田園風景でのサイクリングや史跡巡りなどを楽しみました。



立山エリアの  
詳細はこちら



旅先では写真や映像を使ったトークイベントを行っている



モンベルヴィレッジ立山のスタッフと

富山県氷見市に到着した私たちは、まるで富山湾に突き刺さっているような3000m級の立山連峰の眺めに思わず息をのんだ。  
海岸沿いを走りながら、日本は特別だと実感した。道路が海岸沿いに走り、波の音を聞きながら、その気になれば魚を見つかることができる。実は、そのような場所は、世界でもそう多くはない。私たちはその後、雨晴海岸のどこまでも続くビーチで海水浴を楽しんだ。  
翌朝は、海王丸パークで、フィバーが大好きになったご飯と納豆で朝食を済ませ、大きくて高い新湊大橋の下を走るという経験をして、モンベルヴィレッジ立山に到着した。私たちはここで、ジャパンエコトラックの魅力を広めるため、これまでの旅の写真や映像

を使ってトークイベントを行った。そして、子どもたちの脳の発達や運動能力、共感力は自然の中で遊びながら育まれるということと話をした。ジャパンエコトラックは、自然を満喫するだけでなく、歴史や文化ともふれ合える素晴らしい手段だ。多くの人がジャパンエコトラックを楽しみ、地域の魅力に触れてくれることを願っている。  
翌朝、空には雲ひとつなく、立山連峰がくっきりと姿を現した。私たちは立山信仰の拠点である雄山神社前立社壇までサイクリングした。そこは巨大な杉と樹齢1000年の木々に囲まれた美しい神社だった。近くの田んぼは、山々からの雪解け水が流れ込み、溢れんばかりの水をたたえていた。薄緑色に輝く田に映える鯉岳はとても雄大だった。